

## 2020年度認定審査サマリーレポート

JABEE の認定・審査は、正会員 63 専門学協会の協力を得て、16 の分野別審査委員会及び JABEE 認定・審査調整委員会による審議・調整に基づき実施されています。プログラム（本レポート本文末尾の注参照）の審査は、各分野別審査委員会から推薦され、認定・審査調整委員会が承認した審査チームによって行われます。その審査結果は、分野別審査委員会における分野としての審議・調整の後、認定・審査調整委員会において全体の審議、調整を行い「最終審査報告書」としてまとめられます。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年通りのスケジュール（申請された審査年度の末までに審査を完了）による認定・審査が実施できなかったほか、審査以外の活動に関しても様々な制約を受けることになりました。このような状況で、関係機関や関係者に迷惑が及ばないことを最優先に事業を遂行しました。

### 1. 2020 年度認定審査結果(中間結果)

#### (1) 審査方針及び結果概要

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として以下の対応により審査を進めることとし、JABEE ウェブサイトで公表しました。

##### ① 審査スケジュールの変更

新規審査及び予備審査に関しては、プログラムが希望した場合のみ申請のあった年度内に審査を完了させる。それ以外の審査は完了時期を 1 年遅らせる。本措置は 2024 年度に申請される審査まで継続して実施する。

##### ② 実地審査は原則としてオンライン手段により代替する

対面での審査は極力実施しないとの基本方針に基づき、原則的に実地審査は Web 会議等のオンライン手段により代替する。やむを得ない場合に限り、必要最小限の人数で 1 日以内の実地審査を実施可能とする。これらの具体的実施方法を記載した「審査のガイドライン」を発行する。

この結果、2020 年度に申請のあった審査のうち新規審査 2 件と予備審査 1 件のみについて認定及び暫定認定を行いました。また、暫定認定中のプログラム 1 件に対する予備審査フォローアップを実施しました。その他のプログラムの審査は 2022 年 3 月に完了するスケジュールとなっています。

## (2) 同一教育機関の複数プログラムに対する特別措置

同一教育機関の複数プログラムの審査年度が同じ場合、原則的にそれらの審査は1つの審査団により実施します（以下、一斉審査と称する）。しかし、審査年度が一致していない場合は将来にわたり一斉審査を実施することができず、実施対象のプログラムを増やすためには何らかの措置が必要となっていました。これに関して本年度からの6年間、同一教育機関の複数プログラムの審査年度が2年連続する場合は、2年目の年度に両方のプログラムの審査を一斉審査として実施する特別措置を設け、対象となるプログラムの希望に応じて実施することにしました。この措置を適用するプログラムについては、今後の審査を一斉審査により実施できるようになります。

## (3) 審査員研修会

審査員研修会は集合形式の研修会を中止し、すべてオンラインでの研修としました。通常は毎年7月に実施していましたが、審査スケジュールの変更にとまらぬ、2021年2月に実施しました。また、審査員候補者の導入研修会（審査講習会）は、審査チームを派遣する学協会の主催によって1回開催されました。

## (4) 認定プログラム減少への対応

認定中のプログラムの数は2010年度以降減少傾向が続いています。2020年度は28プログラムが認定継続を辞退し、このうち9プログラムは国立高専のプログラムでした。認定プログラムの減少はJABEEの認定事業の存続にも関わる重要な問題ですので、2019年度自己評価（5項参照）の結果に基づいて対策を立て、組織的に対応していく予定です。国立高専に関しては、国立高等専門学校機構との間で定期的に協議していくことが合意され、高専に適した審査方法の実現などにより認定プログラムを増やすための検討を進めて行くことになりました。

## (5) JABEEの認定と認証評価との連携

大学改革支援・学位授与機構による3巡目の機関別認証評価では、JABEEの認定を取得している教育機関については、評価基準の領域6に関する自己評価書の作成が大幅に簡略化できることになりました。この措置による具体例として2019年度の認証評価において、全課程がJABEEの認定を取得している豊橋技術科学大学の自己評価書における基準6-1～6-4の項目では、認定を取得しているということを示すのみで、「満たしている」と評価されています。

## 2. 国際関係

### (1) 海外認定プログラム修了者に対する技術士第一次試験免除の取り扱い

ワシントン協定は加盟団体に対して、自国の技術者資格の取得の条件を他国の認定プログラム修了者にも同等に適用するよう各加盟団体が国に働きかけることを求めています。これに対応するために、JABEE では他国のワシントン協定加盟団体認定プログラムの修了者が日本の技術士資格を得ようとする場合に、実質的同等性により国内の修了者と同様に第一次試験の免除を適用するための仕組みを文部科学省及び日本技術士会とともに検討してきました。三者間での基本合意を 2021 年度中にも成立させるよう、現在関係団体との調整を進めています。また、これとは別に、JABEE が海外で認定したプログラムへの技術士第一次試験免除の適用が拡充され、2021 年 3 月の官報告示から該当する海外プログラムの公表が始まりました。この措置に関しては、今年 6 月のワシントン協定総会に提出する年次報告書で、各国の認定団体との情報共有を予定しています。

### (2) インドネシア技術者教育認定団体 (IABEE) 設立支援

JABEE は、インドネシアに技術者教育認定団体 (IABEE) を設立して認定制度を立ち上げるための国際協力機構 (JICA) の支援事業に関して、予定されていた 5 年間 (2014 年 11 月～2019 年 9 月) の作業を完了し、当初の目標であった IABEE のワシントン協定への暫定加盟を実現しました。その後、IABEE からの強い要望により、2021 年を目標にワシントン協定へ正式加盟するまでの支援延長が決定していましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行によりワシントン協定の加盟審査が実施できない状況となったため、2022 年まで支援を延長することになりました。

### (3) 海外協定の定例会議

JABEE が加盟しているワシントン協定、ソウル協定及びキャンベラ協定の定例会議は、新型コロナウイルス感染症の影響によりすべてオンラインでの実施となりました。このような形で開催されたワシントン協定総会において、コスタリカ (CFIA) が 21 番目の加盟団体として承認されました。また、協定加盟団体の各国内での認定審査活動のオンライン化が急激に進んだことを受け、協定審査 (新規加盟審査、継続加盟審査) のオンライン化の検討を進めるとともに、イギリスを除く全ての加盟審査を 1 年延期することになりました。ソウル協定においても、ワシントン協定と同様に全ての協定審査を 1 年延期することが決定しました。ソウル協定に関して JABEE から協定審査員を派遣していたメキシコの加盟審議は、被審査団体からの提供情報の不足により加盟可否の決定が保留となっています。キャンベラ協定については、JABEE の部会主査及び委員が、オンライン開催の定例会議に出席しました。

### 3. 広報・普及活動

2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、計画していた広報・普及活動としてのワークショップなどの講演会の開催や教育機関、企業への訪問を延期しました。

#### (1) JABEE フェロー懇談会の開催

2018年度からフェロー制度がスタートし、現在までに65名の方をフェローに任命しました。フェローとの交流を図るとともに、JABEEとJABEEを取り巻く国内外の状況を共有し、フェローの協力を得てJABEEの認定審査の質の向上や認知度の向上の取り組みを強化するためのきっかけとして、Web会議により第1回フェロー懇談会を9月23日に、第2回を11月13日に開催しました。

会長、副会長、広報・普及委員長の出席のもと、JABEEの近況と技術者育成に関わる国内外のトピックスの説明を行い、フェローの皆様から貴重なご意見、ご提案をいただきました。

#### (2) 学会、企業関係者への広報活動

JABEEの認知度向上のためにメールマガジンを発行しており、昨年度に続き4回配信しました。これまではJABEEのイベント報告が中心でしたが、メールマガジン秋号より編集方針を変更し、企業経営者の方やフェローの方に企業が求める人材や能力などについてお話していただいた内容を掲載しました。

学協会関係者にJABEEの状況を知っていただくために、日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム(2021年1月)と日本工学会事務研究委員会(2021年3月)にてJABEEについての紹介を行いました。また日本機械学会年次大会(2020年9月)や日本地質学会JABEEオンラインシンポジウム(2021年3月)などでJABEE関連のイベント、講演会等が開催されました。さらに農業農村工学会誌「水土の知」(第88巻第4号)でJABEE関連の特集が組まれました。

さらに、国内のエンジニアリング関連企業約250社を会員とする一般財団法人エンジニアリング協会との相互連携により、技術者の初期能力開発(IPD)や継続研鑽(CPD)などとの関連でJABEEの知名度向上の施策を進めることにしました。

#### (3) ワークショップの開催

JABEEは2012年から公益社団法人日本工学教育協会と共同で「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ」を毎年開催してきました。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症により、ワークショップの開催は見送ることにしました。

#### (4) パンフレット

一般向け及び学生向けのパンフレットを2020年度用のデータに更新して増刷しました。2020年度は大学等でのイベント開催が少なかったため、パンフレットの配布数が昨年度より大幅に減少しました。

#### 4. 認定プログラム修了生の技術士資格取得状況

JABEE認定プログラムの修了者（以下、修了者と呼ぶ）は修習技術者（技術士第一次試験合格と同等）となります。修了者の修習技術者が、2008年度に技術士第二次試験に初めて合格し、技術士の資格を取得しました。それ以降、修了者の合格者は順調に増加しています。また、初期は修了者が若年であったため低かった合格率も年々向上し、2020年度の第二次試験の結果では遂に逆転して、修了者の合格率が全体平均を上回りました（図1）。

修了者の合格者は378名で2019年度から68名増加（22%増加）しています。また、全体の合格者に対する修了者の合格者の割合は2019年度の11.0%から15.7%へと大きく伸びています。年代別で見ると20代の51.5%、30代の35.4%が修了者であり（40歳以上の修了者はまだ極めて少数のため、合格者はほとんどいません）、若い技術士の多くが修了者であることが分かります。最年少（26歳）の合格者は全体で27名ですが、そのうちの19名（70%）は修了者でした。

合格者の平均年齢は全体で42.7歳であったのに対し、認定プログラム修了者は32.1歳でした。以上のように、JABEEの認定が若い技術士を生み出すための推進力の1つとなっていることが分かります。

#### 5. 2019年度自己評価

2019年度までの事業状況に基づき2020年度にまとめた「自己評価書」により、3月に教育機関、認証評価機関、産業界、マスコミなどの外部有識者を招いて外部評価委員会を開催しました。この委員会において、JABEEの現状に対する評価と事業改善のための意見をいただきました。これに基づいて、JABEEの事業運営における課題についての改善を進めていきます。自己評価の結果をまとめた「自己評価書」は4月28日にJABEEのウェブサイトで公開しました。

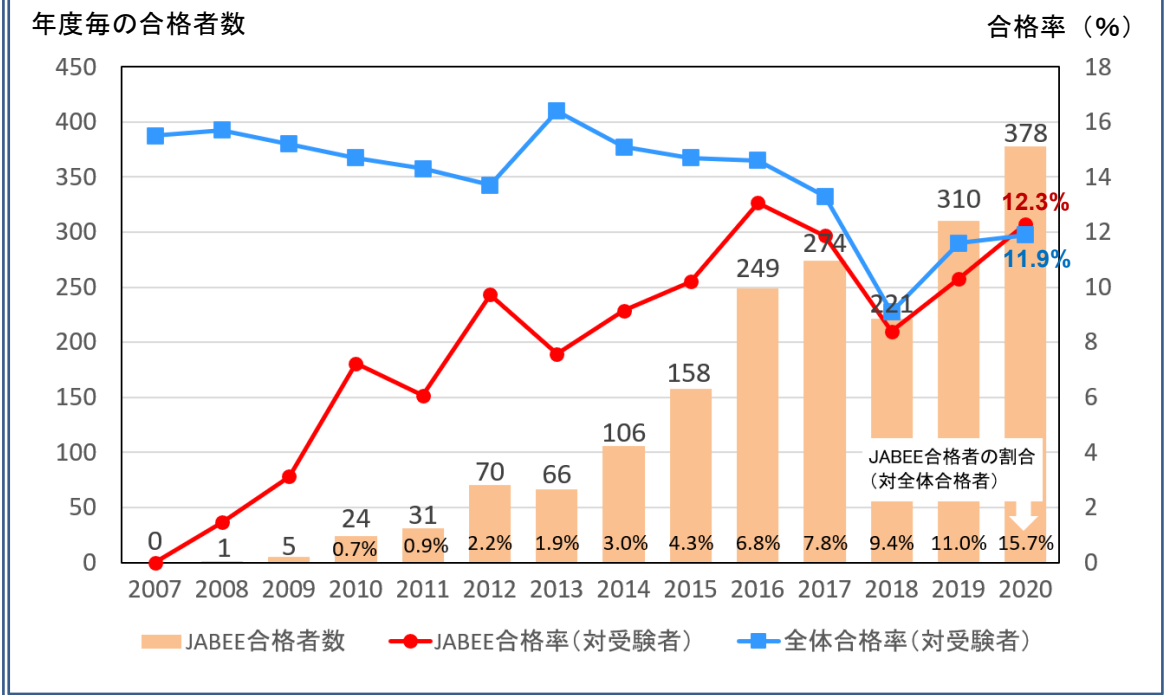
#### 6. 新型コロナウイルス感染症への業務上の対応

2020年3月頃から新型コロナウイルス感染症の国内での拡大が始まり、審査においては1項に記載したような変更と対策を講じた上で実施することになりました。また、各種委員会、理事会等は全面的にオンライン会議により実施することにしたほか、事務局の勤務体制も在宅勤務主体に切り替えました。これらの業務形態の変更に支障な

く対応できるよう、東京都の事業継続緊急対策（テレワーク）助成金の支給も受けてネットワーク環境の整備を行いました。

注：「プログラム」とは、学科、コース、専修等のカリキュラムだけではなく、プログラムの修了資格の評価・判定を含めた入学から卒業までのすべての教育プロセスと教育環境を含むものであり、学科やコースなどの総称です。

図1 技術士第二次試験合格者数／合格率の推移



注1：「JABEE合格者数」は、技術士第二次試験に合格したJABEE認定プログラム修了者の数を表す。  
 注2：「JABEE合格率」はJABEE認定プログラム修了者の技術士第二次試験の合格率（受験者中の合格者の割合）を表す。  
 注3：「全体合格率」は技術士第二次試験の全受験者の合格率を表す。